



# みんなでえらぶ! 本誌愛称!!

創刊号での本誌・愛称募集にすぎな名前を多数お寄せいただきありがとうございました。いずれも名市大への想いのつまったネーミングで、広報委員も悩みに悩みました。そこで、本誌が同窓・同門のみならず、永く愛される冊子となるように、みなさまの投票を参考に決定することになりました。候補作10点から下記の方法で投票して下さい。お待ちしております!

1

## Fresh Water

瑞穂の地にちなんで、「みずみずしい→水」から連想。大学を離れたOBには名市大の今を知る機会が乏しくなります。そんなOBと大学を結び懸け橋に。

2

## メディポート

「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大の最新情報を発信する拠点。卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるように。

3

## 絆

学生と教職員、地域の人々という「人と人の絆」、「大学と地域社会との絆」、「人間と学問との絆」。こうした大切な絆がより強まるように。

4

## Bridge

文字通り、本誌が名市大とOBを結び懸け橋、在学生、OBが世界へ渡っていく懸け橋に。

6

## 瑞医(ずいい)

瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大。「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌に、と考えました。

5

## COSMOS(コスモス)

宇宙を意味するこのギリシャ語には、調和のとれた美という意味も。名市大の日々の成果を美しい情報として伝える広報誌に。イメージカラーは花の秋桜にかけて淡い色合いで。

7

## MIND

名市大生、OBのHuman Mind、Research Mind Clinical Mind。豊かな知性、精神、意志を広く社会・世界に発信する。

8

## 芽吹き

待ちに待った春。柔らかな新芽が現れ、新緑に包まれる季節は、生命の息吹・力強さを感じます。そんな生命力溢れる若芽のように、名市大から新たな感性、発想、人材が次々と芽吹き、豊かな葉を繁らせていくイメージで考えました。

9

## Wa!

「和」と「サプライズ」を意味します。今、名市大が必要なのは、年齢層・職種を越え力をあわせること、ブレークスルーする勢いだと思います。

10

## 睦mutsumi

教職員、学生、OB...そのどのラインも意見交換が足りないように感じます。睦(むつみ)は親睦を表す言葉。本音で意見が飛び交い柔軟に変化していける名市大になるように。

## contents

**極** 研究&教育  
Current topics in research and education

**人** 時の人  
People in the news

**技** 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

## 「医学部同窓会」・「教室同門会」合同 名市大病院フルオープン記念事業へのご寄附のお礼

名古屋市立大学病院のフルオープンにあたりまして、昨年11月から同窓会・同門会の皆様にご協力をお願いしてまいりました記念事業へのご寄附につきましては、お陰を持ちまして1,000人を超える皆様から、目標額を上回る5,600万円の金額をお寄せいただきました。

このような多くの皆様にご賛同いただき、温かいご支援を賜りましたことを、まずもって心より厚くお礼申し上げます。同窓会・同門会の皆様が等しく「名市大人(めいしだいじん)」として名古屋市立大学病院を愛する熱い思いを痛感し、皆様からいただいた愛情に少しでもお応えできるよう全力を尽くす所存でございます。

今後とも私たち大学への温かいご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

平成19年2月吉日  
医学研究科長・医学部長 郡 健二郎  
医学部附属病院長 上田 龍三

## 投票方法

上記10候補から、お好きなタイトルに下記の方法で投票してください。投票結果を参考に、広報委員会で決定、次号で発表します!  
(投票はお一人一度に限りです。)

### 1.ハガキ、E-mailでの投票

ハガキ、またはE-mailで投票する場合は、「お好きなタイトル名1作品、その理由、氏名、卒業年度、現職」を記入し、下記までお送り下さい。(※お寄せいただいた個人情報は本誌の企画・作成の目的以外で使用したり、第三者に提供することはありません。)

〒467-8601 名古屋瑞穂区瑞穂町字川澄1 名古屋市立大学 医学部事務局 広報誌タイトル投票係 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp

### 2.HPからの投票

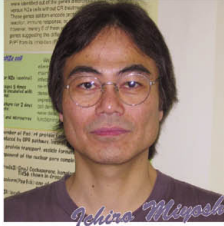
URL:<http://www.yc758.jp/cgi-bin/kohologin.cgi>

上記URLの「名古屋医学部広報誌—愛称アンケート」からログインしてください。必要なログイン・パスワードは、「kawasumi」(半角小文字)です。

投票締切:平成19年3月末日



### 研究者紹介



#### 三好 一郎 (みよし いちろう) 実験動物研究教育センター 特任教授

専門: 実験動物学および糖鎖生物学、発生工学 (テーマ: 発生工学的手法による疾患モデル動物の開発及び疾患原因遺伝子の解析)

遺伝子組換え動物の作製・解析から、家族性白内障やWilson病、Menkes病等の自然発症モデル動物の疾患原因遺伝子の構造および発症機構を明らかにした。また、個体レベルでの細胞表面糖鎖 (特にスフィンゴ糖脂質) の機能解明およびプリオン感受性・抵抗性モデルの開発。

近年の論文: Biochem Biophys Acta 1690:208-19 (2004) Genimics 87:191-9 (2006)  
趣味: PDAいじり

#### 大手 信之 (おおて のぶゆき) 臨床病態内科学 助教授

専門: 循環器内科 (テーマ: 臨床心臓病学、心臓力学、心エコードプラ法による心機能評価、心臓PETによる心筋代謝評価)

心臓力学に基盤をおき心エコードプラ法を用いた左室拡張性評価法の開発とその応用による拡張期心不全の病態解析。心臓PETを用い、収縮期心不全の主原因である心筋梗塞後左室リモデリングの病態を心筋代謝、心筋交感神経β受容体密度の面から研究を展開。

近年の論文: J Am Soc Echocardiogr 19:1332-7 (2006) Am J Cardiol 99:62-7 (2007)  
趣味: 読書、演歌を聴くこと (家族からは軽蔑される)



### 関連病院



### 活気のある病院! いなべ総合病院

#### Q 病院の特色は?

急性期一般病床だけで220床を有する公的病院で、地域の中核病院になっています。当院の母体は三重県厚生連で、昭和28年に開設され、平成14年9月に新築移転し、診療機能を広げて現在に至り、単独型臨床研修病院となっています。新病院は50%が個室で、完全空調などハード部門と最新医療機器の整備など患者さまにも職員にもアメニティーの高い病院になっています。当院は行政、消防署、医師会そして住民と極めて上手く連携の取れた病院といえます。また全ての医師が名市大医局の関連です。

([http://www.miekosei.or.jp/4\\_ish/](http://www.miekosei.or.jp/4_ish/))

(インタビュー: 脳神経生理学 飛田 秀樹)

#### Q 教育・研修病院としての取り組み?

研修医の視点にあわせた環境を整えました。充分な研修医手当、年休の消化・学会参加奨励、パソコン無償貸与、研修備品の整備、入院から退院まで継続診療ができる体制など自由度の高いプログラム、検査や手術の技術アップにつながる参加型の研修など満足度を高めます。診療科間での垣根は全くありませんのでcommon diseaseを対象とする初期研修としては最も適しています。また、研修医のための専用宿舎も無償で提供しています。将来の留学に備えて専任外国人講師による医師のための英語教室を院内で開催しています。アマゴ釣り、鈴鹿山系の山歩き、ゴルフなど趣味も応援し、感性の高い人格形成をしていきます。

### 学部教育

#### 共用試験OSCEが実施されました

平成18年度名古屋市立大学OSCE (客観的臨床技能試験) が12/23 (土)、市大病院西棟にて実施されました。OSCEは複数のステーションを使用して、1ステーションあたり5分から10分程度の時間内に臨床能力 (問題解決能力、態度・技能) の評価を行う試験です。OSCEの課題例としては医療面接 (写真A)、頭頸部診察、胸部診察、腹部診察 (写真B)、神経診察、外科・救急診察 (写真C) などを行います。

共用試験は診療参加型臨床実習のための資格試験で、知識を問うCBTと技能・態度を問うOSCEから成ります。これにパスした医学生は臨床実習で診療チームの一員となることができます。

(文責: 労働・生活・環境保健学 榎原 毅)



B 下級生の学生が患者役を演じ、腹部聴診を行っている。 A 医療面接。標準模擬患者として地域ボランティアにご協力頂き実施。

C 心肺蘇生用マネキンを用いて心肺蘇生を行う。





加藤 茂氏 (写真右)  
(愛知県医師会 代議員会 副議長)

昭和32年名古屋市大卒。昭和37年東大院卒。順天堂大講師、名市大院内講師(第1外科)、愛知学院大助教授を経て、昭和43年米国留学(胸部外科)後、春日井にて開業。春日井医師会会長、県医師会監事を歴任。(河村昭徳理事(整形)と一緒に撮影)

(インタビュー:脳神経生理学 飛田 秀樹)

### 妹尾新体制において活躍中 県医師会の代議員会副議長 加藤 茂氏

**Q 副議長業務を簡単にご説明を。**  
県医代議員会は、簡単に説明すると県医師会の庶務、財務、事業等の重要な会務の運営を議決する機関で、代議員は50人につき1名が選ばれます。また医師連盟という組織があり、代議員はその執行委員も兼ねます。現在代議員会副議長、医師連盟議長という立場ですが、政府方針のもと保険診療及びその報酬が決定されている現状から、政治に関与する事は避けられないことと考えます。皆様のご理解を得たく、また、ご協力が必要と考えています。

**Q 診察のモットーは?**  
いつも全身から始めて局所に進み、系統的に診ることを心掛けています。そして、観察していく。判らない症例ほどじっくりと考えます。

**Q 今、大学に期待することは?**  
独立法人化され、長い目で見ないと結果が出ないとか或は失敗するかもしれないものに手が出せなくなる状況であることを憂います。江崎玲於奈先生が書いています…。真空管の改良を志しても、トランジスターの発見は生まれなかつたらうと。基礎研究が必要…。最近感心したことばです。



浅川 夏海 医師  
(H16年 名古屋市大)  
2007年冬、小児科病棟にて

2000年夏、マストランド(西スウェーデン)にて。同級生と留学先の先輩を訪ねた。左から、浅川夏海(名市大・小児科)、佐藤里奈(東市民・眼科)、稲垣友紀子(第2日赤・麻酔科)、川端恵里加(西尾市民・不明?) (敬称略、当時の氏名と現所属・推定)

(文責:生種・発生医学 尾崎康彦)

### 女性医師という人生 (あるシニアレジデントの場合)

名市大医学部が名古屋女子医専に由来するという歴史的事実と先輩方の弛まぬ努力によって築かれた伝統が、本学・本院の女性たちを輝かせている。現在医学部の約25%を占める女子学生は将来の市大の確かな大きな戦力であり、何ものにも代え難い貴重な財産だ。「再び戻るために一度は離れる必要があった。」浅川夏海医師は言う。新研修医制度元年に卒業した彼女は茅ヶ崎での2年間の研修を経て昨年4月名古屋へ戻った。「母校はいつも支えであり、暖かく迎えてくれた。」彼女は今シニアレジデントとして後期研修を積むと共に後輩の指導にも余念がない。現在予想より早いペースで卒業生のUターン現象が始まっている。平成19年度の名市大病院シニアレジデントの約50%が本学出身者であり、他の初期研修病院から戻った医師は約30%にのぼる。その理由の一つが“桜山の絆”であることを否定する人はいない。「でも」と彼女はこう付け加える。「ここが安住の地とは思わない。自分の可能性を試すためには今(若いうちに)動くことはためらわない。」彼女は4月からの一宮市民病院小児科への赴任が決まった。そこが彼女にとって新たな戦場だと知りながら、輝く瞳があまりにも眩しい。「女性は子どもを産むための機械・装置ではない。」世界に取り残された“遅れた国日本”の喧噪を尻目に、今彼女たちのステップは軽やかに。そして澄んだその眼差しは遙か未来に向いている。

### 市大病院クリスマス コンサートで癒しのひととき

毎年恒例となっている名市大病院クリスマスコンサートが12/22(金)、中央診療棟3階大ホールにて開催された。院内学級で学ぶ児童によるハンドベル演奏、同大医学部の学生によるピアノ演奏、弦楽四重奏など、心とます調べを奏でていた。同大医師の山田和雄先生、土肥靖明先生らによる「赤とんぼ」「虹の彼方に」などノスタルジックな演奏に涙する人も。また東海福祉総合専門学校の学生サンタによる思わぬプレゼントに、会場の子供たちも大喜びだった。本コンサート実行委員会代表の山田先生は「クリスマスを大学病院で過ごす患者さんの癒しになればと思い始めました。次回も学生諸君、教職員の皆様のボランティア参加を期待しています。」と語ってくれた。

(文責:労働・生活・環境保健学 榎原 敬)



**B** (上) 院内学級で学ぶ児童によるハンドベル演奏  
**A** (中央) 音楽劇「スノーマン」で、ピアノを演奏するのは市大医学部1年の豊原祥資君  
**C** (下) 専門学校のサンタから子供たちに素敵なプレゼント  
(右) 歌を担当した同医学部1年の鈴木奈々さん  
(左) ひまわり学級担任石黒和栄先生



### それは夢の芸術なのか？(ART最前線)



左から斎藤さん、佐藤医師、服部医師

ART(補助生殖技術)は子供を希望するカップルに大きな福音をもたらしたが技術の発展の陰で倫理なきカオスの状況もある。近年ARTは単なる治療法からPGDへと診断法としての一つの可能性を示した。PGDとは何か？そしてそれは未来へのプレイクルーなのか？命の始まりを見守る限りなく真摯な瞳。その巨大な指が巧みに操るARTの世界が誰の目にも圧巻な、産婦人科佐藤剛講師(写真中央)を直撃した。

(インタビュー:生殖・発生医学:尾崎 康彦)

#### Q.着床前診断(PGD)とは？

体外受精技術で得られた初期胚より1~数個の割球を採取・解析し元の胚の異常の有無を診断し子宮内へ移植する胚を決定する方法で、遺伝性疾患の罹患者または保因者である御夫婦の胚が対象となります。絨毛や羊水を用いる出生前診断と異なり妊娠前に診断するため妊娠成立時点で胎児に疾患がないことが判明しており、不安無く妊娠を開始・継続できます。また罹患胎児妊娠による流産の反復や妊娠中絶の選択による母体の身体的、精神的苦痛を避けられることも大きなメリットです。

#### Q.PGDの問題点は？

問題点としては、①体外受精に付随する母体への合併症、胚生検の出生児への長期的影響など安全性に関する問題、②胚操作・解析に関わる高度で繊細な診断技術の必要性、限られた検体による診断精度の限界などの技術的問題、③胚の選別、疾患の重篤度の判断に関する倫理的問題などがあります。そのため、施行に対する意思決定の前に、疾患に対する適切な遺伝カウンセリングの実施、他の選択肢の提示とともに、これら問題点についても十分な説明がなされる必要があります。

#### Q.PGDの今後は？

ヒト全ゲノム解読が終了し疾患遺伝子の解析が進む中PGDが可能な疾患は増加すると思われます。平成18年4月に染色体相互転座に起因する習慣流産が適応に加えられました。当教室では伝統的に流産の研究・臨床に力を入れておりこのような患者様にも治療法の選択肢の一つとして御希望があれば施行の準備は整っています。現在学会の認可を受けPGDでの治療が進行中、待機中の方が数組みえPGDの成功により元気な赤ちゃんが訪れるための一助となるようスタッフ一同頑張っています。

### 青山名誉教授に瑞宝中級章

去る11月3日の秋の叙勲で、医学部の第1期生で名誉教授の青山光子先生に瑞宝中級章が贈られました。

この勲章は国家又は公共への功勞、殊に公務に永年従事して業績を挙げた人に贈られるものです。

青山先生は、研究では自動車排気ガスの生体に及ぼす影響や、衣料加工処理剤の安全性、衣服・室内気候と体温調節に関する研究など、いずれも環境衛生研究をリードする成果を挙げられました。さらに、本学の学生部長として受験改革期の対応に当たられ、政府や自治体の環境衛生関連の審議会・委員会の委員を歴任、医学部同窓会長や愛知県交通安全母の会長としても活躍され、数々の賞を受賞されています。



### 井谷教授に経済産業大臣表彰

平成18年度「工業標準化事業経済産業大臣表彰」で、本医学研究科労働・生活・環境保健学分野 井谷 徹教授が選ばれ、去る10月13日に東京で表彰式が行われました。

これは、工業標準化事業に功績のあった人が対象となるものです。井谷教授は、長年ISO(国際標準化機構)でTC159(人間工学専門委員会)のSC3(人体計測と生体力学に関する分科委員会)の議長を務め日本から提案の国際規格採択に尽力されたこと、その下のワーキンググループの議長や、さらに関連する国内対策委員会の委員も同様に務められて人間工学分野における専門家として貢献されていることが評価され、今回の表彰となりました。

なお、井谷教授は、平成19年1月をもって、国際労働機関(ILO)本部の労働保護局長として転出されました。



CaHC

ライフサイエンス サポート企業へ。

株式会社「カーフ」は、「創造と努力」「誠実と感謝」を企業理念とし、科学・医学・産業の研究・開発の発展に寄与するため 試案をはじめ、工業薬品、検査薬、分析機器の販売を通じて顧客に貢献しています。特に、バイオサイエンス・ライフサイエンスの分野において、オンリーワン、ナンバーワンとしての存在を目指しています。

株式会社 **カーフ**  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-8-5  
TEL 052-971-6533

愛知東営業所 0564-66-1580 浜松営業所 053-431-6801  
岐阜営業所 058-268-8151 三重営業所 059-236-2531

<http://www.cahe.co.jp>

For Customer



発行:名古屋市立大学医学研究科・医学部

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成19年6月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

#### ◆ 広告募集についての概要

左記スペースの広告を募集しております。詳細につきましては発行所:名古屋市立大学医学研究科・医学部、広報誌担当者までお問い合わせください。